

令和7年度 ダイズ莢及び子実被害調査結果

1. 主要な病害虫の発生の概要

(1) 吸実性カメムシ類

被害粒率は、県全体で平年より高くなりました。

(2) マメシンクイガ

被害莢率、被害粒率ともに会津で平年よりやや低く、中通り、浜通りで平年より低くなりました。

(3) 紫斑病

被害粒率は、中通りで平年よりやや低く、会津、浜通りで平年より高くなりました。

(4) ベと病

被害粒率は、中通り、会津で例年より高く、浜通りで例年並となりました。「里のほほえみ」は本病に罹病しやすいため、発生初期から防除を実施してください。

2. 調査の概要

(1) 調査地点・ほ場数、調査莢数、調査粒数

	地点・ほ場数	莢 数	粒 数
中通り	3 地点・12 ほ場	2,551 莢	5,446 粒
会 津	3 地点・12 ほ場	2,596 莢	5,470 粒
浜通り	3 地点・12 ほ場	2,646 莢	5,604 粒
合 計	9 地点・36 ほ場	7,793 莢	16,520 粒

(2) 調査方法

1 ほ場当たり約 200 莢を採取し、莢及び子実を調査

3. 県全体の被害発生状況

(1) 莢被害

被害莢率は、平年よりやや低くなりました。マメシクイガ、ダイズサヤタマバエによる被害率は、平年より低くなりました。シロイチモジマダラメイガ、ツメクサガによる被害率は、平年より高くなりました（図1）。

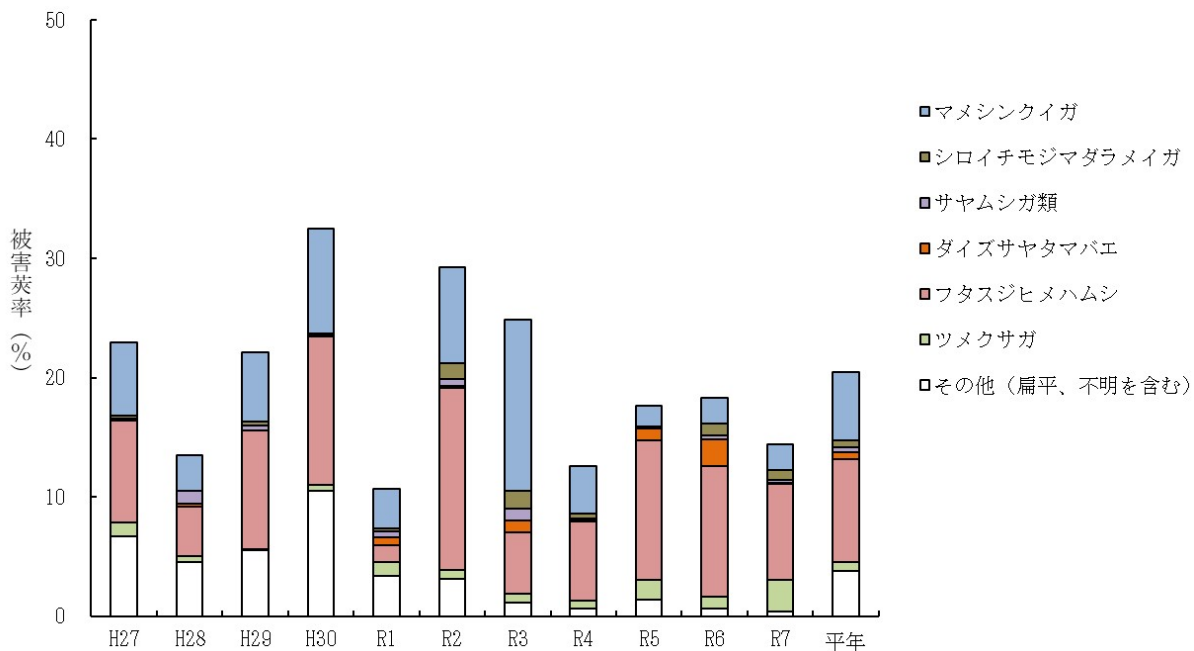


図1 原因別被害率の年次推移

(2) 子実被害

被害粒率は、平年より高くなりました。吸実性カメムシ類による被害粒率は、平年より高くなりました（図2）。

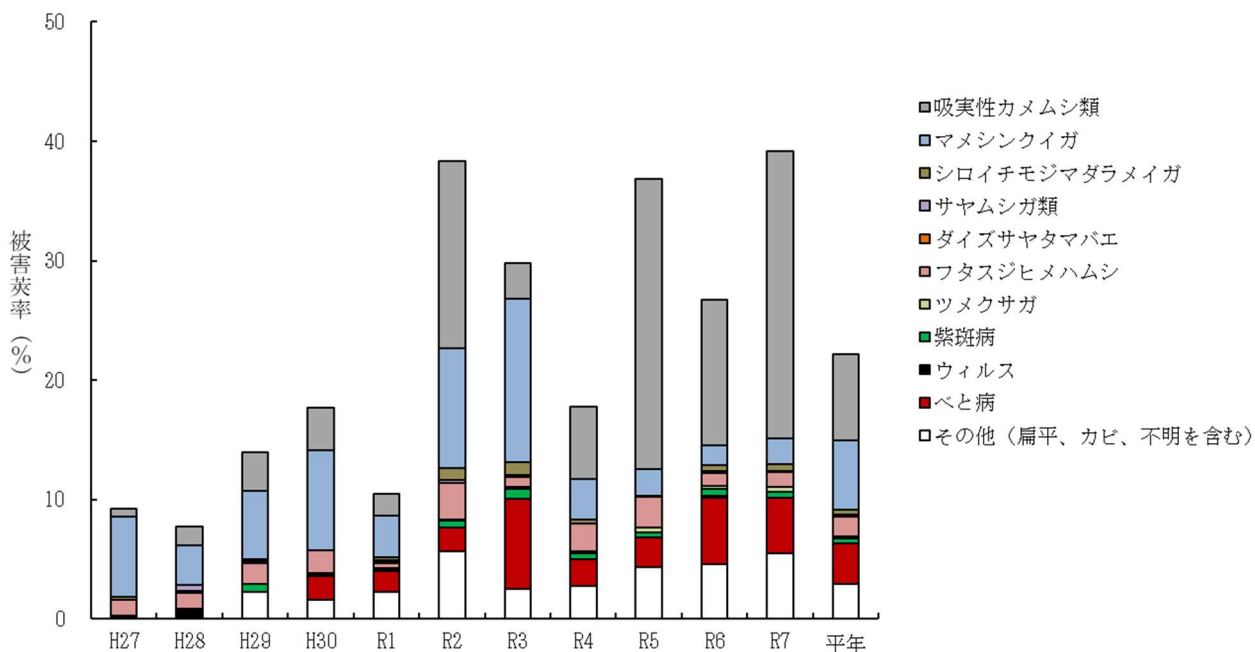


図2 原因別被害粒率の年次推移

4. 害虫による子実被害の発生状況

(1) 吸実性カメムシ類

被害粒率は、県全体で平年より高くなりました（図3）。

ダイズの生育期間中の気温が平年より高く経過し、吸実性カメムシ類の増殖・活動に適した気候だったことから、被害が多くなったと推測されます。

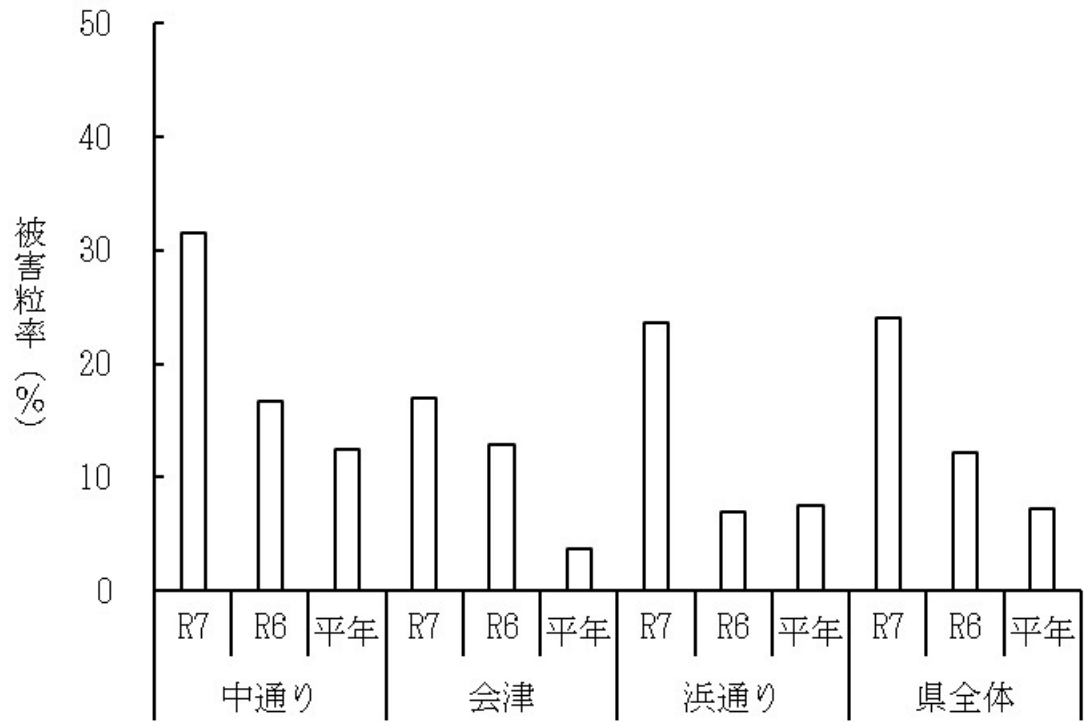


図3 吸実性カメムシ類による子実被害の発生状況

(2) マメシクイガ

被害莢率・被害粒率ともに会津で平年よりやや低く、中通り、浜通りで平年より低くなりました(図4、図5)。

3年以上連作を続けるほ場では発生が急増しやすいため、防除を徹底してください。

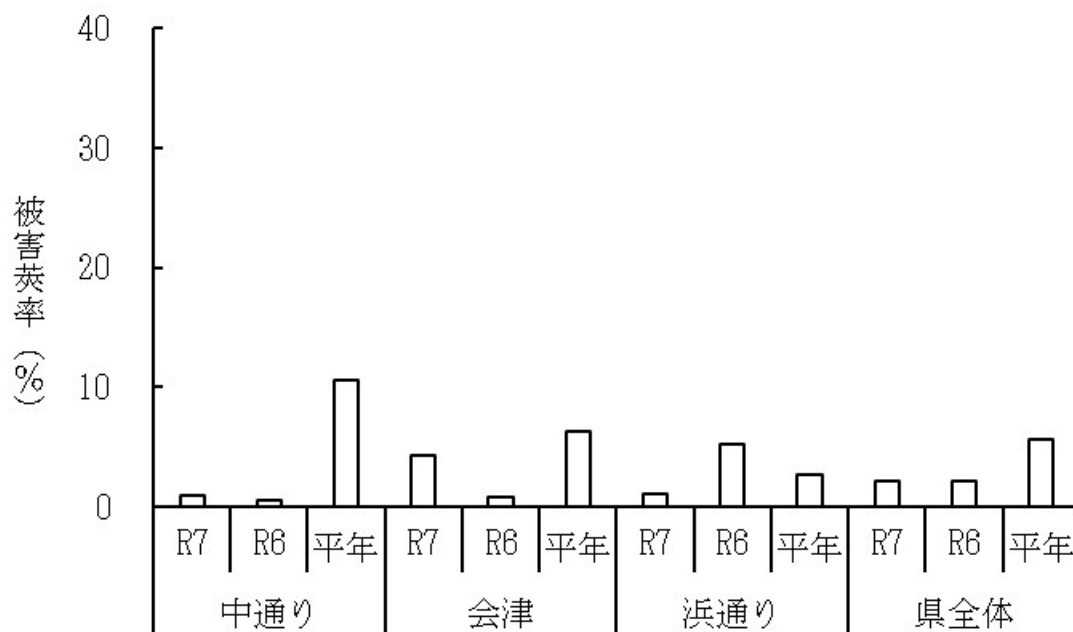


図4 マメシクイガによる莢被害の発生状況

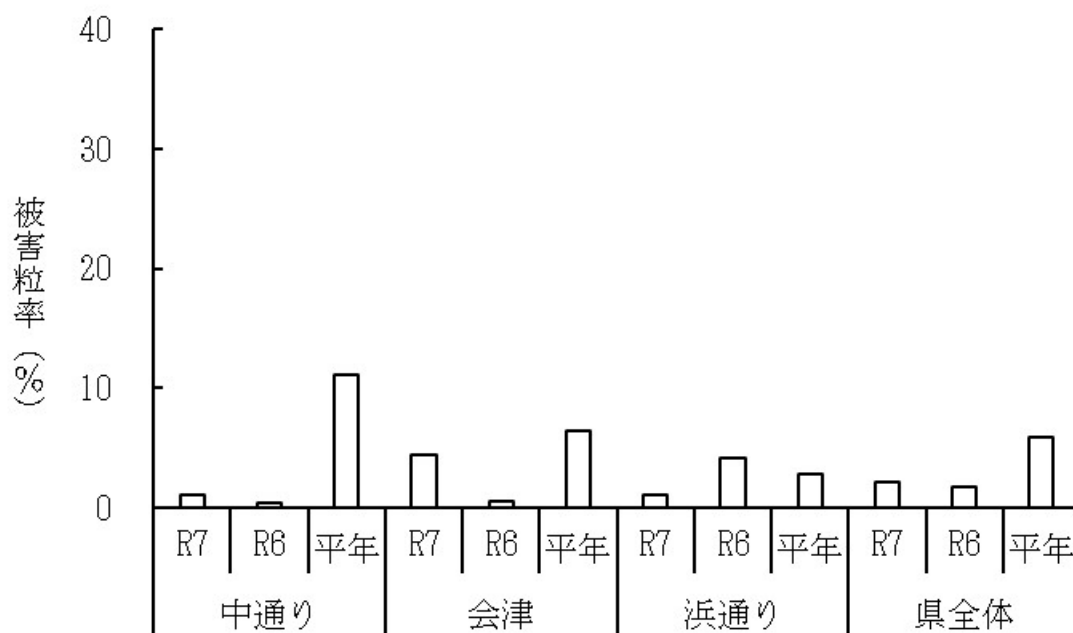


図5 マメシクイガによる子実被害の発生状況

(3) シロイチモジマダラメイガ

被害莢率は、中通りで平年より高く、会津、浜通りで平年よりやや高くなりました。

被害粒率は、中通り、会津で平年より高く、浜通りで平年より低くなりました（図6、図7）。

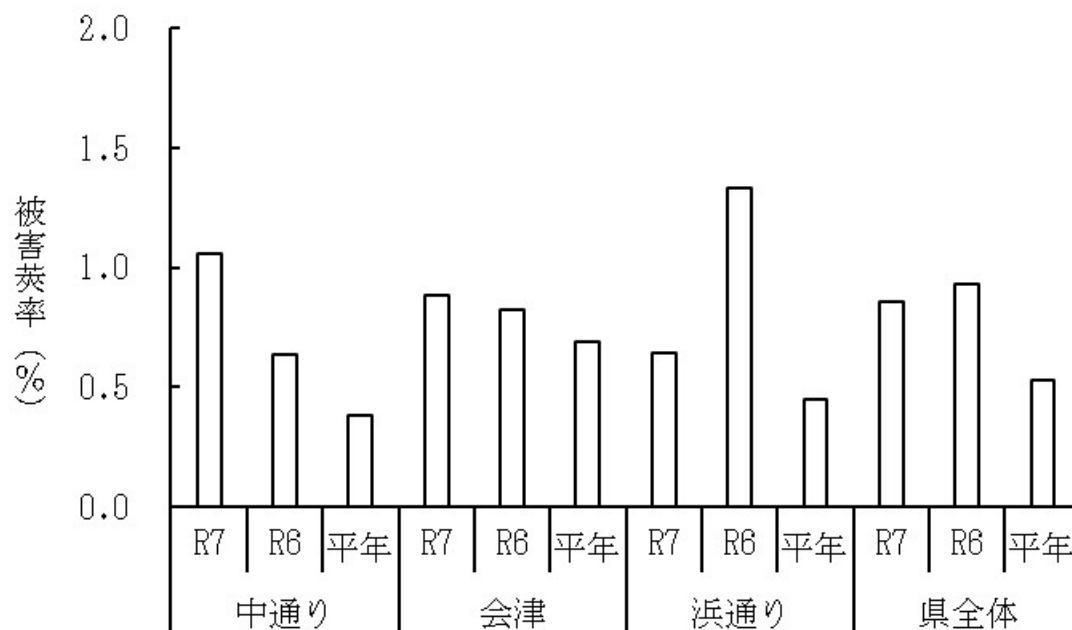


図6 シロイチモジマダラメイガによる莢被害の発生状況

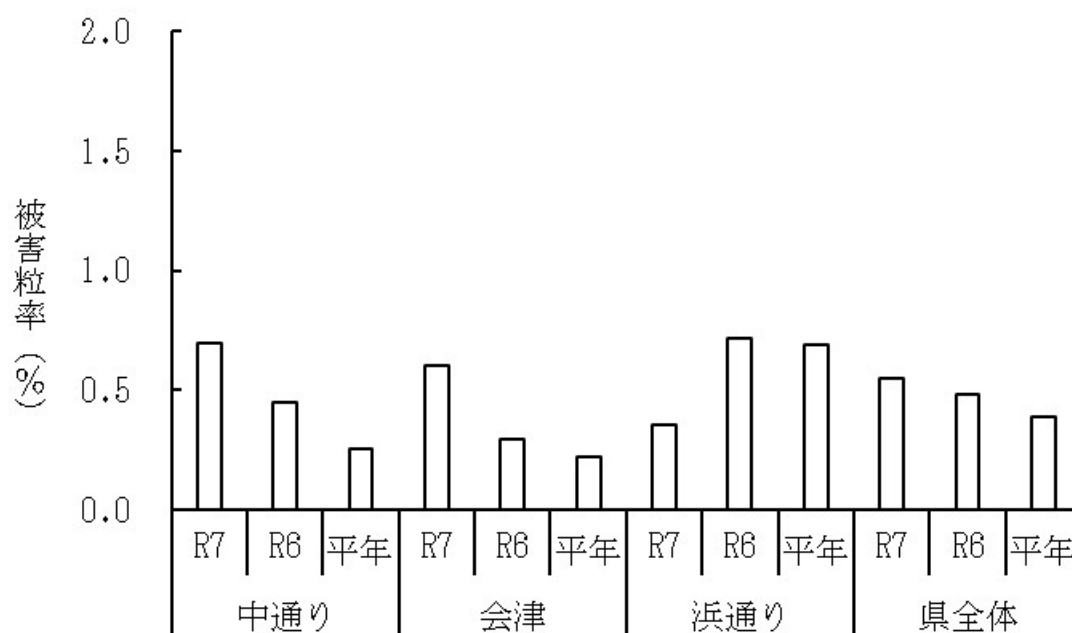


図7 シロイチモジマダラメイガによる子実被害の発生状況

(4) サヤムシガ類

被害莢率・粒率ともに中通り、会津で平年並に低く、浜通りでは莢・子実ともに被害は確認されませんでした（図8、図9）。

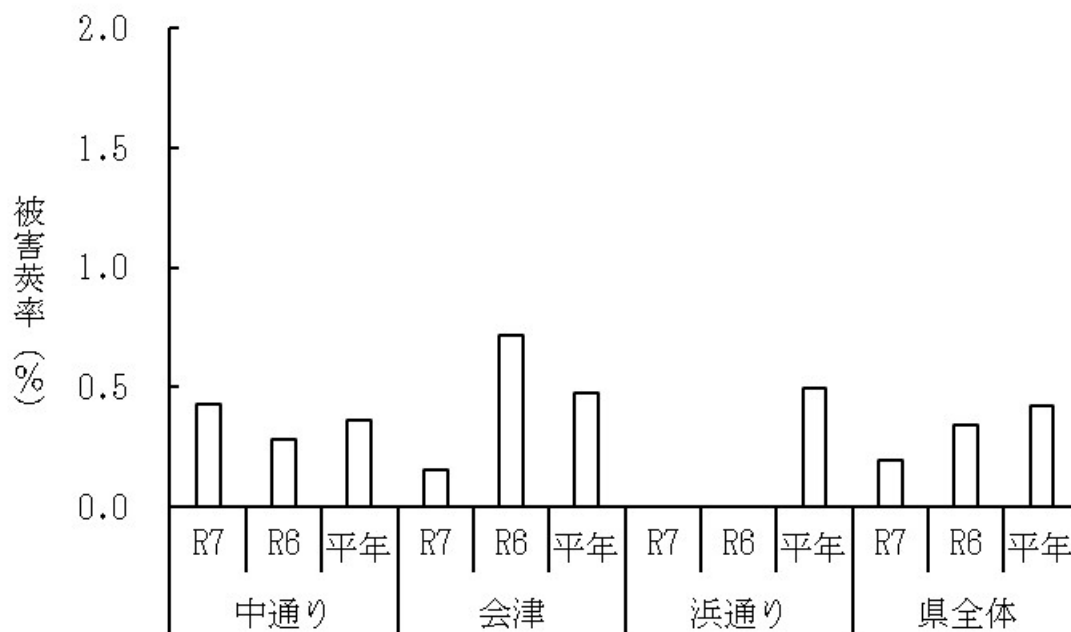


図8 サヤムシガ類による莢被害の発生状況

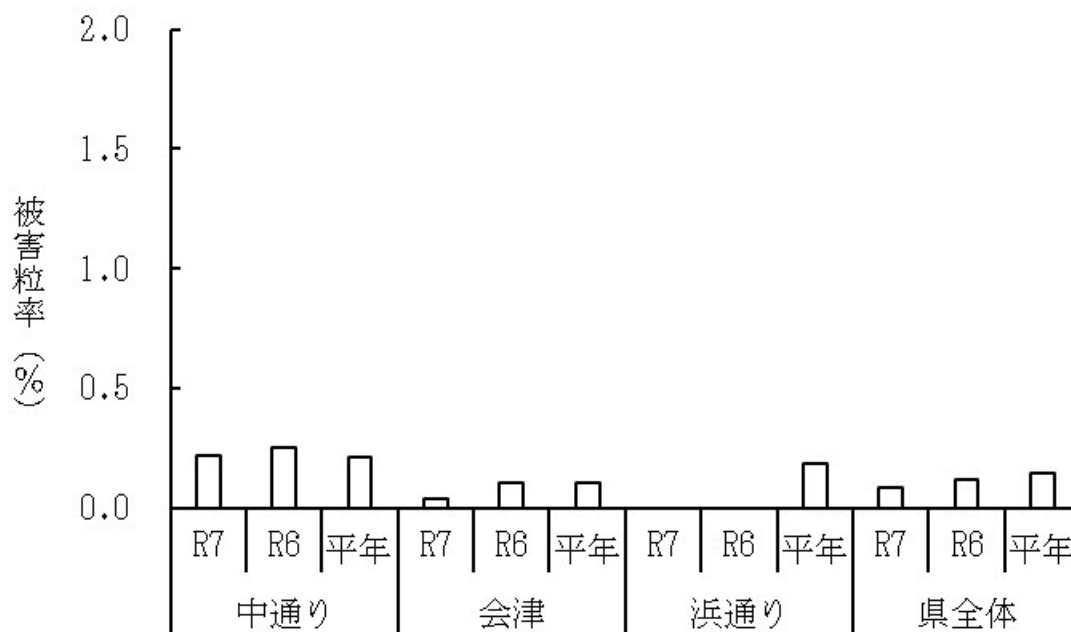


図9 サヤムシガ類による子実被害の発生状況

(5) ダイズサヤタマバエ

被害莢率は、県全体で平年より低くなりました。子実被害は、確認されませんでした。(図 10、図 11)。

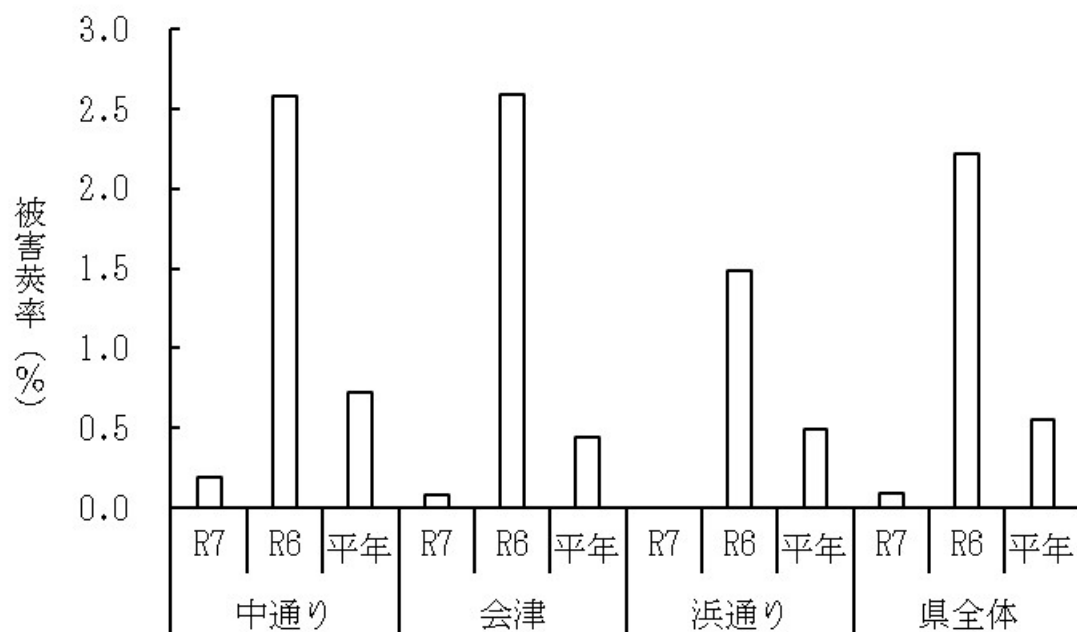


図 10 ダイズサヤタマバエによる莢被害の発生状況

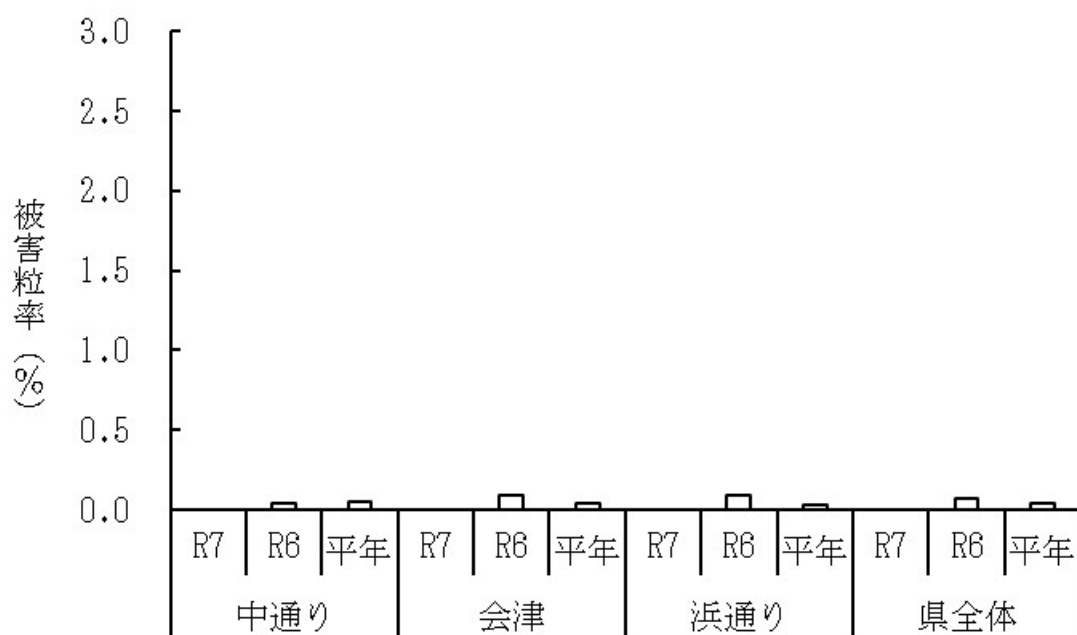


図 11 ダイズサヤタマバエによる子実被害の発生状況

(6) フタスジヒメハムシ

被害莢率は、中通りで平年より高く、会津で平年よりやや高く、浜通りで平年より低くなりました。被害粒率は、県全体で平年並に低くなりました（図 12、図 13）。

発生が多いと収量や品質に影響を及ぼすので、子実肥大期に防除を行ってください。

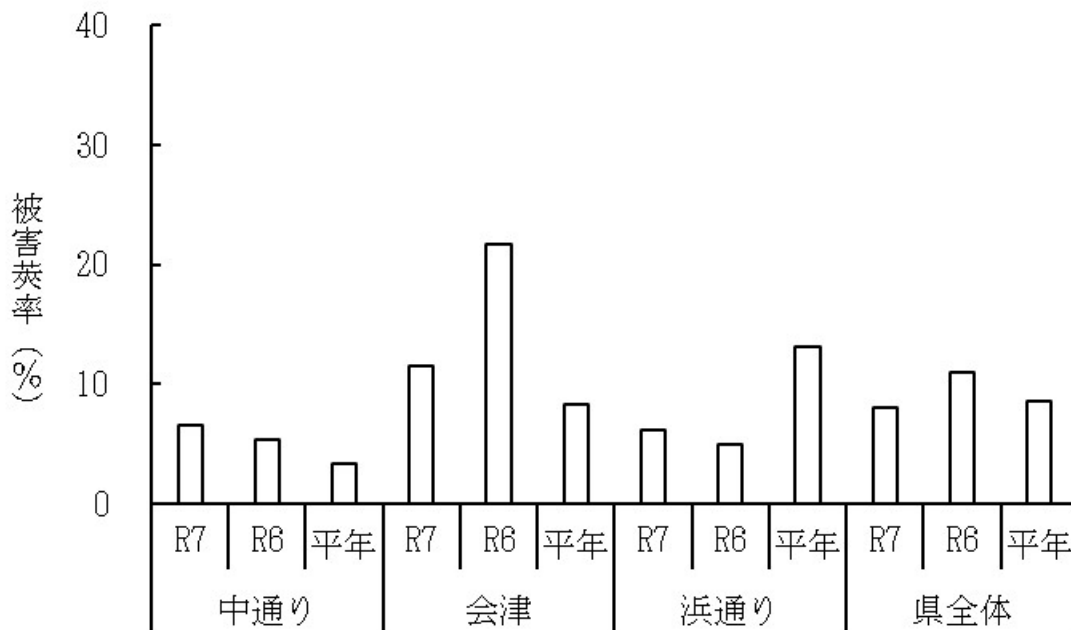


図 12 フタスジヒメハムシによる莢被害の発生状況

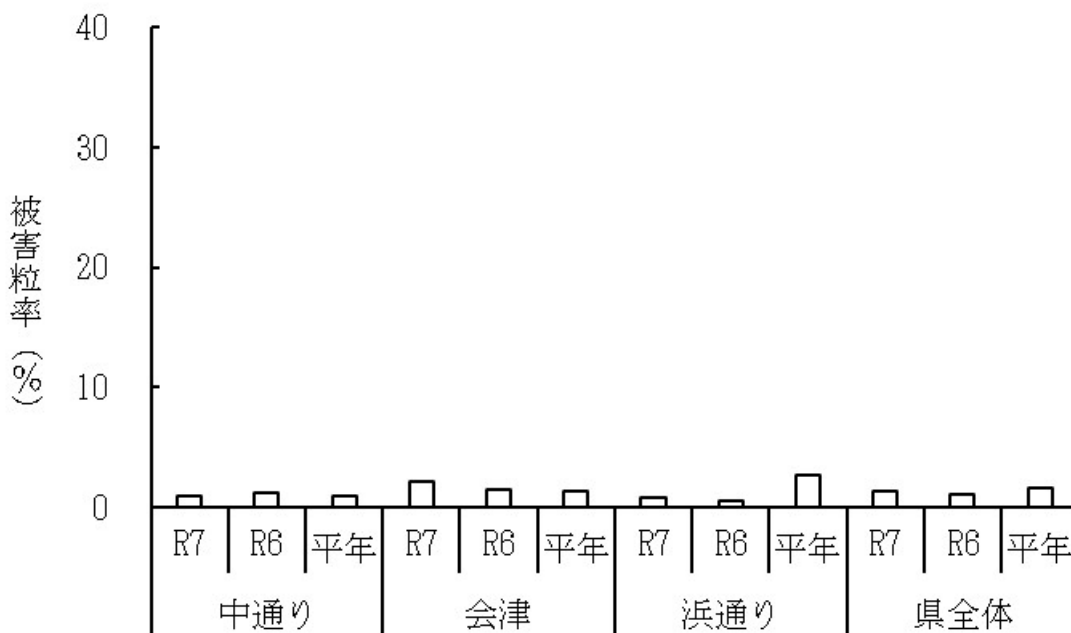


図 13 フタスジヒメハムシによる子実被害の発生状況

(7) ツメクサガ

被害莢率は、県全体で平年より高くなりました（図 14）。被害粒率は、中通りで平年より高く、会津、浜通りで平年並に低くなりました（図 15）。

本種及び他の食葉性チョウ目幼虫が、一時的に多数発生し葉が食い荒らされる被害が浜通りの一部地域で確認されました。発生が多いとその後の生育や収量に影響を及ぼす場合があるため、幼虫が若齢のうちに防除を実施してください。

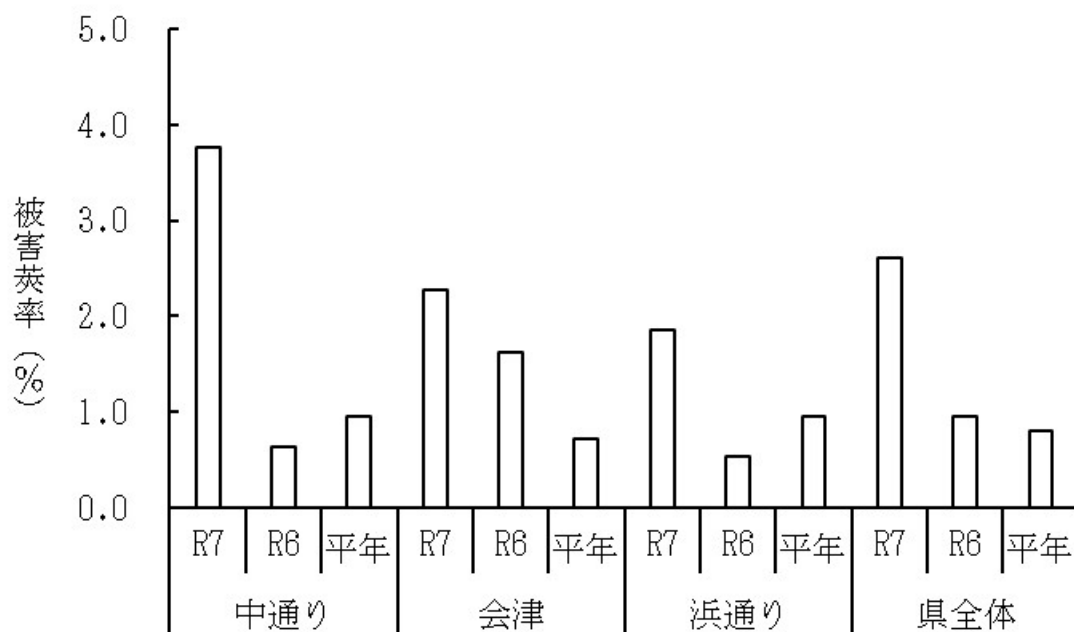


図 14 ツメクサガによる莢被害の発生状況

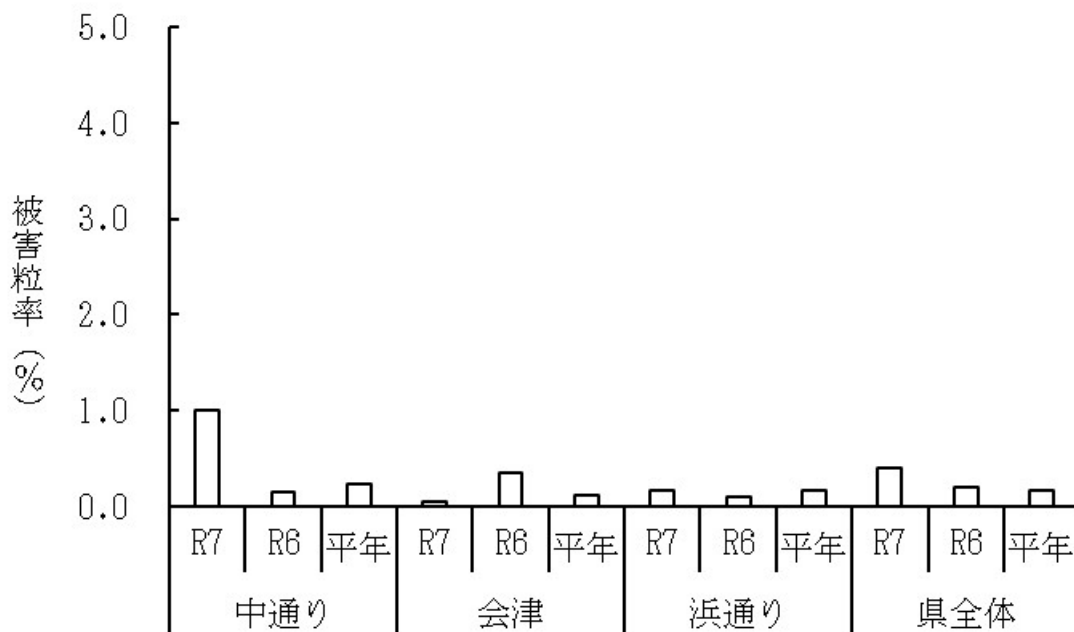


図 15 ツメクサガによる子実被害の発生状況

5. 病害による被害の発生状況

(1) 紫斑病

被害粒率は、中通りで平年よりやや低く、会津、浜通りで平年より高くなりました（図 16）。

収穫の遅れや収穫後の放置で被害が拡大するため、適期収穫と収穫後の速やかな乾燥・調製を心がけてください。

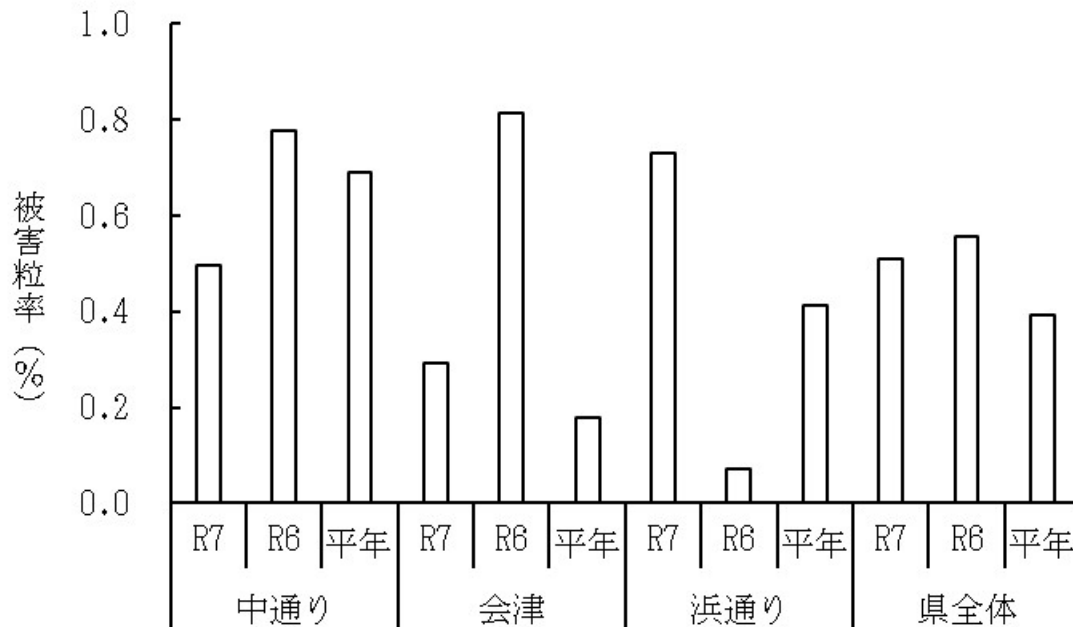


図 16 紫斑病による子実被害の発生状況

(2) ベと病

被害粒率は、中通り、会津で例年より高く、浜通りで例年並となりました（図 17）。

近年作付面積が増えている「里のほほえみ」は、本病に罹病しやすいため、発生初期から防除を実施してください。

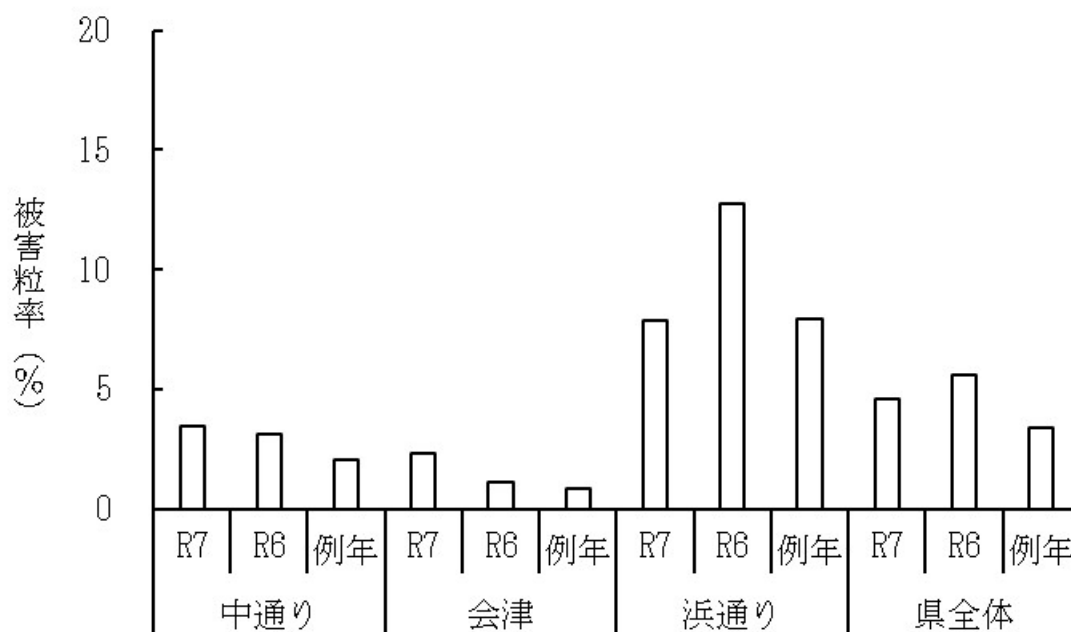


図 17 ベと病による被害の発生状況

注) 例年：過去 7 年平均